



# 草津中通信

令和3年 3月15日(月)  
草津町立草津中学校 No.24

**教育目標 心豊かで、高い知性をもつ、健康な生徒の育成**

卒業おめでとうございます ~卒業式式辞から~

学びとは、何かを暗記することだけではありません。また、目の前の問題を解くことだけでもありません。世の中に転がっているたくさんさんのピースから、必要なかげらを探し出し、組み合わせを工夫しながら、より価値のあるものに換えていくこと、つまり、自分の頭で考えて解決を目指す行為そのものが学びなのです。大人に近づくにつれ、みなさんには絶えずそれが求められることでしょう。

この頃、朝鮮半島では高句麗、新羅、百済が対立し、中国大陸では唐が栄えていました。そんなとき、唐と新羅の連合軍が日本と関係の深い百済を攻撃してきたのです。もし、百済が負ければ次は自分たちが危ないと考えた日本が、四国から救援軍を出発させた際に戦勝を祈願して詠まれました。このように、歌の背景を知れば幅広い見方につながり、未知の世界を想像する楽しさにもつながることでしょう。

今から千四百年前くらい前、額田王がこんな歌を詠んでいます。  
塾田津に船乗りせむと月待てば  
潮もかなひぬ今は漕ぎ出な  
「塾田津で船出をしよう」と待っていたら潮の流れもちょうど良くなった。さあ、今こそ出発しよう」卒業や進級の頃にはよく紹介されています。



中学校を卒業し、新しい世界に飛び込んでいくみなさん。たくさん失敗して下さいます。そして、新しい出会いの中には楽しいことばかりではありません。むしろ、いやなこと、悲しいこと、悔しいこともあるでしょう。しかし、夜が更ければ朝は必ずやってきます。真夜中のように気持ち落ち込んでいても、あきらめず、少しずつ、少しずつ挑戦し続けてください。その間にも太陽は、必ずみなさんのすぐそばまでやってきていることでしょう。最後になりましたが、保護者の皆様、本日はおめでとうございます。皆様これまで一生懸命にお子様を育てて下さったこと、本校教育活動に対してご理解とご協力をいただきましたことを深く感謝申し上げます。三十四名の卒業生も四月からは新しい生活を始めます。これまでと同様にその成長を温かく見守り、支えて下さるようお願いいたします。



卒業を前に日頃はできないワックスぬりや欄間そうじを



皆勤賞(3年生)

安藤瀬里 大場美佑 佐藤志英瑠 佐藤たまき 宮崎未歩 村田夕夏



2021 関東ユースシリーズ第2戦東京大会(回転) K2女子 第6位 坂田 結

3級をとれば中学校卒業と同等の英語をもっているといわれています。



### 1年生進路学習 ～弁護士 村越芳美先生による職業講話～「働くのは何のため？」(3/4)

中3のときにテレビや新聞で伝える内容に「本当にそうなのか」とわいてきた追求心から、法律の道を目指したそうです。

紙芝居やクイズなどをとりいれながら、働く意義についてお話をいただきました。そして、大人になってから大変なこと、悩むことがでてきたとき、一人で抱え込まずに、周りの人に相談するとよいことなども教えていただきました。貴重な機会となりました。ありがとうございました。



それぞれの生徒が開いている画面を一斉表示しているモニター

### タブレットPCの活用を試行中



3月に入ってからタブレットPCを授業で使い始めています。映像などをすぐに利用できるため、視聴覚的な効果が高いです。また、生徒が理解できるまで繰り返し学習でき、生徒の進度に応じた学習が可能になります。今後は、ネットの活用能力を育むと同時に、情報モラルも身に付けていくことが一層重要になってきます。ちなみに、今回のタブレットPCを学校に導入した「ギガスクール構想」とは、国としてソサイエティ5.0というすぐそこまで来ている未来社会で活躍できる人材を育てるためとされています。

ちなみに、ソサイエティ5.0と呼ばれる社会は  
狩猟社会 (Society 1.0) → 農耕社会 (Society 2.0) → 工業社会 (Society 3.0)  
→ 情報社会 (Society 4.0) → 創造社会 (Society 5.0) という段階を経ています。  
AI、ロボット、ビッグデータなどの革新技术を、あらゆる産業や社会に取り入れ、経済と社会問題を解決する社会を目指していく動きが含まれています。遠い未来の話ではなくすでに始まっている社会なのです。

タブレットは使わないときは、充電ができません。こうすると夜の間に充電ができません。翌日は朝から再び使えます。



### 10年前のあの日から

東日本大震災が発生した時間帯、中学校では卒業式も終わり、部活をしていたところで大きなゆれを感じたことでしょう。津波の被害はもちろん、原発の爆発もあり、言葉にするには難しいほどの不安を感じた日から10年が過ぎました。当時、燃料をはじめとした物資の不足もあり、東日本を中心に出口の見えない閉塞感も漂っていました。

ところで、人間には「自分は大丈夫だろう」と根拠もなく都合のよい解釈をする傾向があるとされています。常に眉間にしわを寄せ続けるのは感心しませんが、「大地震は来ない」とか「自分はコロナにはかからない」といった自分に都合のよい解釈をして、何の備えをしないことも心配です。2011年3月11日、あたたかい風呂に入れたことに感謝した晩のことは忘れたくないことのひとつです。